

# 施政方針に代表質問

定例会議初日に示された市長の施政方針や令和4年度予算に対して3月1日、2日の2日間わたり、各会派からの代表者6人により「代表質問」が行われました。(質問者の文責により、質問と答弁の要旨を掲載)

各議員の記事にあるQRコードを読み込むと、代表質問の動画を視聴できます。(通信費は利用者の負担となります。)



## 夢・希望を持ち実現できるふるさと秦野を目指して

創和会 福森 真司

### 一 市長の政治姿勢について

市長が公約に掲げる「5つの誓い2022」の実現への想いと、今後の市政運営に向けた市民へのメッセージはどのようなものか。

答 多くの市民の想いや願いを集約し、本市の未来を見定めた上で新たな目標として掲げた施策を具体化する。夢と希望に満ちた「ふるさと秦野」のため、全身全霊で市政運営に当たる覚悟である。

要望 本市を愛する先人たちが、地域の努力の結晶である新東名高速道路の開通を契機に、全国屈指の森林観光都市に導いてほしい。

### 二 新年度予算の基本姿勢と評価について

問 社会情勢の変化への対応が必要なか、過去最大となる令和4年度予算の基本姿勢と評価はどうか。

答 新型コロナウイルスの拡大防止と社会情勢の変化への対応が必要なか、過去最大となる令和4年度予算の基本姿勢と評価はどうか。

問 民間や地域と連携した学習支援など、これまでの成果を踏まえた今後の進め方はどのようなものか。

答 市民力を生かした寺子屋方式の放課後学習支援事業や非認知能力に着目した学力向上施策である学びの基盤プロジェクトなど令和4年度において一層の拡充を図る。

### 五 幼児教育・保育の質の充実について

問 特色ある幼児教育・保育の質の充実、まちづくりに重要な要素だが、今後の展開はどのようなものか。

答 教育水準の向上には集団性の確保が重要となる。引き続き、より良い幼児教育・保育環境の整備に向けて取り組んでいく。

### 六 表丹沢魅力づくり構想の推進



## 表丹沢の魅力づくりと小田急線4駅周辺のにぎわい創造の一体的な推進を

自民党・新政クラブ 風間 正子

### 一 全国屈指の森林観光都市について

問 全国屈指の森林観光都市を目指すに当たり、本市が誇る表丹沢の森林資源の活用と、小田急線4駅周辺のにぎわい創造とのつながりはどのようなものか。

答 地域の53%を占める森林を含む表丹沢の魅力づくりに加え、駅周辺の土地活用を推進することで、豊かな自然と活気ある市街地に多くの来訪者を迎えたい。

### 二 学校給食と地産地消について

問 令和3年12月に始まった中学校給食に地産地消の活用が決まったが、国による有機農業の推進をどう考えるか、どうか。

答 住宅政策・移住相談担当を新設し、移住に関する総合的な窓口としてきめ細かな対応に努めたい。

### 四 市民と行政が共に力を合わせて創るまちづくりについて

問 令和3年7月に開催された高校生議会を受け、学生団体E4から陳情が提出されるなど、まちづくりの主役となる若者の参画が重要だが、活動拠点の整備はどうか。

答 駅周辺など利便性の高い拠点を求める声を踏まえ、県が進める県道705号の整備に合わせて活動拠点の整備を検討したい。

問 構想の具現化には、都心から近い山岳・里山アクティビティの聖地としてのブランド化が必要と考えるが、取り組みはどのようなものか。

答 表丹沢の魅力に触れられる総合HPの運用や、通年の体験をまとめた(仮称)表丹沢ツーリズムの構築などにより、ブランド化とファンづくりを推進する。

### 七 戸川土地地区画整理準備組合への技術支援について

問 権利者の合意形成を図る取り組みを進めているが、組合設立までの展望はどのようなものか。

答 これまで準備組合では、事業計画書の確定、仮同意の収集、関係機関協議、業務代行予定者の決定を順次進めている。本市としても準備組合、業務代行予定者と連携しながら、話し合いにより事業への理解が得られるよう取り組む。



TANZAWA LIFEポータルサイト



## 「5つの誓い2022」の着実な推進を望む

市民クラブ 大野 祐司

### 一 総合計画と5つの誓いと令和4年度予算の関係性について

問 総合計画に対し、市長選挙で掲げられた「5つの誓い」では、2項目が追加されている。その理由と期待される効果はどのようなものか。

答 「5つの誓い」は総合計画のリーディングプロジェクトをベースとしていたが、これに2つの想いを加えた。一つ目は、4駅周辺を持続可能な都市拠点として全体的に底上げしたいとの想いであり、民間活力を生かす起爆剤として、にぎわいの創造を推進していく。

### 二 電子地域通貨の導入検討について

問 以前は、コロナ禍での経済対策の実施に当たっては、クーポンなどの紙媒体を用いていたが、電子媒体とする理由は何か。

答 紙媒体での多大な業務負担などが課題だった。ポストコロナを意識し電子媒体の導入を検討する。



## 未来ある子どもたちのために一層の配慮を

公明党 中村 英仁

### 一 新型コロナウイルスワクチン接種について

問 感染拡大防止の鍵はワクチンだと考えるが、5歳から11歳までの接種券の発送や情報提供、接種体制について、本市の対応はどのようなものか。

答 本人や保護者に接種への理解を深めてもらえるよう、厚生労働省や本市が作成した小児向けの案内を同封して情報提供している。

### 二 通学路の安全対策について

問 市内の通学路の点検や安全対策が必要と感じるが、令和4年度における取り組みはどのようなものか。

答 4年度はこれまで取り組んできた取り組みを継続し、令和4年度は、10年以上にわたる園小中一貫教育に取り組んできた



と認識しているが、今後の推進の考えはどのようなものか。

答 誰もが輝く暮らし良い都市を目指したインクルーシブ教育の推進を図るため、新たに特別支援教育等コーディネーターを配置し、学前と義務教育の円滑な接続を強化する。また、国が新たに始める幼保小の架け橋プログラムとの連携も視野に入れ準備を進めている。

用語解説

\*学生団体E4(イーフォー)・・・公益社団法人秦野青年会議所が主催した「秦野高校生議会2018」の参加者有志が中心となって立ち上げた高校生団体。Eager(熱心に)、Enjoy(楽しく)、Effort(努力を怠らず)、Effect(私たちの秦野に良い影響を与えられるように活動しよう)という思いが込められている。